

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0173800525		
法人名	株式会社 イワクラ		
事業所名	グループホーム ゆーあい天馬②		
所在地	新冠郡新冠町字中央町17-11		
自己評価作成日	令和3年9月10日	評価結果市町村受理日	令和3年11月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173800525-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	令和3年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な住宅地(当社分譲地)の一面に平屋建て2ユニットのグループホームとして開設いたしました。近隣は新興住宅地であり新築の住宅も多く比較的に若い世代も多く子供の遊ぶ姿も見受けられます、当社もこの住宅地の中に3階建ての賃貸マンションを所有しており、当ホームの職員も代用社宅として数名が居住しています。緊急時等には大変協力的な戦力となっています。この地域の中で生活を継続出来るようホームでは近隣の方々には積極的行事の参加を呼び掛けてきました。近年は近隣の方から今年は何時ですかと声を掛けられる事もあり、楽しみにしている方も居りますが、現在、新型コロナ禍感染も収束して居らず開催は困難な状況にあります。来年こそは開催できる事を望んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、日高管内新冠町の市街地に位置し、閑静な住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。旧JR新冠駅から徒歩圏内で、家族や友人・知人も訪問しやすい利便性のいい地区である。法人は、胆振日高管内を基盤として、道内を中心に全国的に展開している建材及び建設関連の大手老舗企業で、地元からの信頼が厚い。2つのユニットは道路を挟んで隣接して建てられており、それぞれ大きな住宅のような感じで、利用者も我が家に住んでいるような様子で、日中はリビングで寛いで過ごしている。事業所主催の夏祭りなどの行事には、家族や地域の方の多数の参加があり地域の行事にもなっているが、コロナウイルス感染症対策の為、現在は休止となっている。また、避難訓練などの災害対策も地域の方の参加で協力体制が構築されており、更に、町内に社宅があり職員が複数居住しており緊急時対応が可能である。ホーム内には、職員がゆったり寛げる休憩室もあり、配慮された造りで、温もりを感じるホームである。これからも認知症高齢者の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない			○	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念を掲げており、管理者、職員はミーティング等で昌和し、日常的に意識し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方も参加して入居者家族と共に夏祭り企画して交流の場も広がり、自治会や町職員のお手伝いもあり、又は町伝統の和太鼓の演奏などで祭りを盛り上げています。(コロナ禍の自粛で去年今年と中止になっている。)		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町主催の地域ケア会議に参加し当ホームの現状報告や他事業所の連携など情報交換を通してホームの実績を町発行の情報誌作成に関わり認知症の人の理解や支援方法などを地域に向けて活かしている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年6回の運営推進会議では利用者や職員の現状を報告し町議員や自治会、福祉関係の方々より助言や要望を頂き今後の運営に生かし、ご家族にも運営推進会議議事録を通して理解を頂いている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎年、町主催の福祉関係事業所と町長、副町長福祉課課長関係者にて懇談会を開催して各事業所よりの実績や問題点の要望を説明して頂き運営に活かしている。今後も定期的に開催して行く事を確認している。(ただし、現在新型コロナウイルスの影響で中止となっている)		
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待、身体拘束廃止委員会を設置しているが、現在、コロナ禍のため会議を控え各ユニットごとにアンケート等を利用し月1回のミーティングで虐待、身体拘束をしない行為の理解に努めている。車椅子を使用している利用者の著しい身体機能低下があるためやむを得ず転落防止の為家族の了承を得てベルトを車椅子に固定している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待防止法を定期的にアンケート等で虐待について周知し事業所内での虐待が見逃ごされる事がないよう防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、町主催の研修が自粛されている。日常生活自立支援事業、成年後見制度を活用している利用者はいないが、必要が生じた場合に備え活用できるように努めている。各ユニットごとミーティング等で勉強会も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族の不安や疑問等は十分な説明し理解を頂き締結をしているが、入居後も来訪時に理解や納得して頂けるように努めている。契約事項の改訂時は説明し文書にて同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に反映できる事では運営推進会議の議事録を送付して、家族等の意見や要望など来訪時には聞き取りをしてミーティング等で話し合い家族の意見等は運営に反映出来る様にしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はミーティング等で集約をして幹部会議にて話し合い、意見や提案を反映させ事業所で困難な次案が生じた場合は本社担当者に状況を説明し対応を聞きながら反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業環境を向上させる為の整備として今回育児介護休業等に関する規定を一部改訂して現在の環境に添うものとして整備し、又資格取得を目指す職員に対して自治体の助成金も活用して研修費用の負担も支援規程を設けて積極的に資格取得に向けて支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	慢性的介護員の不足は続いている事もあり資格者職員を確保する事は厳しい状況にあり、事業所内で勤務評価を把握し各種の研修会等への参加を促しその費用を投資して人材を育てる機会を確保していく取り組みもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業各社との交流では地域の社会福祉法人理事長とも親交があり不定期に問題や課題に対しての情報交換を通して共有し相互の理解を認識して今後の活動や運営のサービス向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面談時に家族と一緒に解りやすく説明し、本人の希望を十分に聞き信頼関係を築けるよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談時に本人、家族と一緒に解りやすく説明し、家族の要望等を十分に聞き信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族が必要としている支援を事前にしっかりと聞き入れ把握し、不可能な場合は他のサービス利用を含め他の事業所へ相談する等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事(洗濯たたみ・食器拭き調理の手伝い等)職員と行っている。又レクリエーション等を通じ関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時は利用者とゆっくり過ごして頂けるよう支援しています。又遠方でなかなか会えない利用者には電話でお話をさせて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来訪された時はゆっくり過ごして頂けるよう支援していますが、現在はコロナで面会も制限されています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し配席の工夫をしています。レク等を通しコミュニケーションを取れるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、必要に応じ家族からの相談があれば対応し支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話の中で本人の思いや意向を聞き取りカンファレンス等で情報の共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していたサービスと連絡を取り経過を聴いたり、家族に聞き取りを行いサービス利用の経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や申し送りで一人一人の日々の心身状態、言動、行動等を周知し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで課題やケアのありかたを話し合っている。又4カ月に一度全職員にモニタリングや課題について提出してもらいサービス担当者会で検討し計画作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容について個人記録や申し送りで情報を共有しカンファレンス等で意見交換し実践や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況等その時のニーズに対応し通院や買い物、イベントの参加等に同行し柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で実施している催事へ参加同行し多くの方たちと関わりが持てるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の掛かり付け医を持ち受診し家族の意向等を相談したり専門医の受診等も行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調変化やバイタル観察し異変が生じた場合はかかりつけ医に電話連絡で相談し、受診、治療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族、病院と情報提供、情報交換を行い早期退院に向けて努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	現在看取りは行っていないが重度化や終末期についてはかかりつけの医療機関の説明等を家族と話し合いを行っています 必要があれば地域の関係者と連携をとっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え消防の救命救急の講習を定期的に受けています。応急手当や初期対応の訓練もしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て年2回自主避難訓練を行っています。又町の避難訓練にも積極的に参加しています。		
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しその方に合ったケア、声掛けを行っている。毎日のケアに対して個人情報保護法に基づいて支援、プライバシーの配慮に努めています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々一人ひとりの状態を観察し自身の希望や思いを傾聴し会話からくみ取り自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	家族から入居前の状況を聴き本人が自分のペースで生活を送れる様希望に添うような支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを家族等からも情報収集し自由に身だしなみが出来るよう支援しています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食べ物や好みの食べ物を事前面談時に聞き楽しく食事をして頂く為に苦手な食べ物に代わる物を出す等の工夫をしている。職員と一緒に食材の下ごしらえや盛り付け食後の後かたづけを行って頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取された食事量、水分量を記録し、十分で無い時は他の食べ物や飲み物で補うようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり起床時や毎食後の口腔ケアで義歯の洗浄や歯磨き等見守り、時には一部介助する等本人の能力に応じた適切な支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとり排泄の習慣や状況を把握しプライドに配慮した声掛けを心掛け本人の出来る範囲で自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	時間を見て排泄の声掛け、日中、夜間共布パンツを使用し排便体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴は週3回と決まっていますが本人の体調の良い日、又本人が希望された場合はシャワー浴を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し夜間睡眠が摂れていない場合は軽い運動を取り入れたり休息の時間を取って頂いてます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理している。服薬時は必ず見守りを行い確実に服薬できているかを確認をしています 薬の変更があった場合は受診記録に記入し職員に周知している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食後の食器拭き等お手伝いをして頂いてます レクリエーション等で気分転換を図れるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩の声掛けをし外へ行ったり買い物に出掛けたり行事等でドライブへ行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っており本人の要望に応じて買い物等をしたり本人の申し出があれば金銭の出し入れがスムーズに出来るよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族に電話や手紙等のやり取りができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾り等で季節感を出しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブル席等に人間関係を把握し考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を居室に設置しなるべく生活環境が変化しないよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	軽作業を通して身の回りのことは出来る限りご自身でして頂いています。 又環境づくりも配慮しています。		